

淡水ワムシ (*Brachionus calyciflorus*) の安定大量培養

太田 滋規

◆背景・目的

淡水産ワムシの1種であるツボワムシは、本県の栽培対象魚種の種苗生産における初期餌料として欠かせないものである。しかし、これまでの生産方法は大きな池に施肥し、自然に発生させるという粗放的な培養方法であり、その生産は天候に左右され、経験と勘が頼りの不安定なものである。そこで、海産魚の種苗生産時に用いられるシオミズツボワムシの連続培養法を応用してツボワムシの生産を試みた。

◆成果の内容・特徴

- 1000ℓ槽を2槽用いた連続培養により、1500～2000個体/mlの密度で1日あたり10億個体のツボワムシ培養が可能となった。
- 培養過程で偶然出現した耐久卵を産みにくい増殖特性に優れたツボワムシ「滋賀水試株」を確立した。

◆成果の活用・留意点

- これまで困難と考えられていた淡水ワムシの培養が、季節を問わず安定して培養が可能となったことで、有用淡水魚の種苗生産を計画的、効率的に行うことが可能となった。



ツボワムシ連続培養装置と ツボワムシ (*Brachionus calyciflorus*)